

家庭ごみの

減量 Reduce

再使用 Reuse

分別 Recycle



図 市生活環境課 TEL 34-0370

私たちが生活する中で必ず出てしまうもの、それは「ごみ（廃棄物）」です。SDGsの目標からも、ごみは減らした方がよいのは明確ですが、私たちはどのような行動が求められるのでしょうか。

ごみ減量化に向けた取組みとして3R【リデュース(減量)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)】が有名ですが、近年はそれにリフューズ(断る)、リペア(修理)といった取組みも増えています。

今回は、その中から基本的な取組みである、3Rの観点からごみの問題を考えてみましょう。

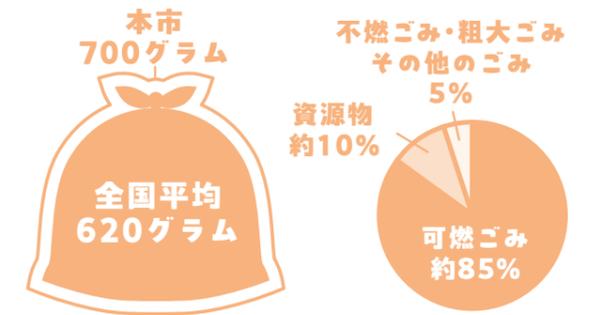
今日捨てようとしているごみ、それはただのごみではなく大切な資源かもしれせん。



家庭ごみの現状

1人当たりが1日に出す家庭ごみの量（令和4年度実績）は、全国平均で620グラム、本市は700グラムと、全国平均より高い水準となっています。県内では中ほどの順位となっています。

家庭ごみの内訳は、可燃ごみが約85%、資源物が約10%、不燃ごみ・粗大ごみ・その他のごみが5%となっています。圧倒的に可燃ごみの割合が多いため、可燃ごみの減量化を図ることが求められています。



ごみ処理にかかる費用は



令和6年度の市内のごみ処理（可燃・不燃・粗大ごみ）にかかる費用は、処理費、収集委託費を含めると約4.3億円を見込んでいます。市民1人当たりで換算すると、1年間で約9千円になります。

処理費と収集委託費以外にも、ごみを処理するためには施設費や人件費などが掛かります。処理費用は皆さんの税金から支払っているため、ごみを減らせば処理費用も少なくなり、一人当たりの負担を減らすことにつながります。



再使用 Reuse

不要品査定サイト「おいくら」

市は、7月に株式会社マーケットエンタープライズと連携協定を締結しました。同社が運用する不要品査定サイト「おいくら」を活用したリユース（再使用）による、ごみの減量化を期待しています。

「おいくら」は、不要品を査定依頼をすると、買取価格を比較してくれます。まだ使用できるものであれば、市では回収を行っていない冷蔵庫や洗濯機などの家電リサイクル法対象製品も買取りの対象となります。

詳しくは、「おいくら」のホームページをご覧ください。

「おいくら」ホームページ

